

大学・高専機能強化支援事業（支援2：高度情報専門人材の確保に向けた機能強化に係る支援）
【高等専門学校】実施状況報告書

測定年度	令和5年度	学校コード	G104110101041	改組内容	学科・コース等の設置・増員（高専）
高等専門学校名	仙台高等専門学校	設置区分	国立	事業計画名	仙台高等専門学校 高度情報専門人材育成・早期輩出機能強化事業
学校種	高等専門学校	都道府県	宮城県		

1.年度別の計画及び取組状況

年度別の事業計画（上欄：研究科等の設置等及びその準備（設置認可申請等）、下欄：教育現場の整備（施設整備、教員採用等）、教育活動の充実等の取組）と取組状況及び自己評価を記載してください。
当初計画から変更又は追加した取組がある場合は「取組状況」に取組を赤字で記載してください。また、計画変更申請をした場合は「取組状況」に承認日を赤字で記載してください。

計画の進捗の遅れや実施困難な事項がある等、自己評価が下位2つの場合には、課題（理由）とその対応を記載してください。計画通りに実施できており、その他課題がない場合に限り記載は不要です。

事業期間	事業計画	取組状況	自己評価、課題（理由）とその対応	
令和5年度	【情報系組織の入学定員】 情報系組織の改組・増員前においては、入学定員は総合工学科全体として280人であり、募集・入学時は1類（情報系3コース）120人	【情報系組織の入学定員】 情報系組織の改組・増員前においては、入学定員は総合工学科全体として280人であり、募集・入学時は1類（情報系3コース）120人	R5年度自己評価	【3】計画を十分に実施している。
	① 5月～ 情報系新コース設置に関する高専機構本部との調整、カキユラム詳細検討・整備。 ② 9月～ 学部改訂（コース定員明記）学内審議、決定、情報系新コース設置 対外周知に向けた準備。 ③11月～ 情報系常勤・特命教員および企業講師確保に関する調査、説明会、採用活動 実施。 ④11月～ 仙台駅前 高度情報専門人材育成センター（仮称）契約、運用準備。 ⑤11月～ サテライト教室 探索、整備、運用開始。	① 5月～ 情報系新コース設置に関する高専機構本部との調整、カキユラム詳細検討・整備。 ② 9月～ 学部改訂（コース定員明記）学内審議、決定、情報系新コース設置 対外周知に向けた準備。 ③11月～ 情報系常勤・特命教員および企業講師確保に関する調査、説明会、採用活動 実施。 ④ 2月～ 仙台駅前 高度情報専門人材育成センター（仮称）契約、運用準備。 ⑤11月～ サテライト教室 探索、 整備・運用開始 。	①情報系新コース設置に関する高専機構本部との調整、カキユラム詳細検討・整備、②学部改訂（コース定員明記）学内審議、決定、情報系新コース設置、対外周知に向けた準備、④仙台駅前高度情報専門人材育成センター（仮称）契約および運用準備に関しては計画通りに実行することができた。 ③情報系常勤・特命教員および企業講師確保に関する調査、説明会、採用活動に関して、情報系教員の説明会および採用活動については、情報系専門分野の教員公募を実施する予定であったが、情報と創造コースでは、情報系科目の教育だけでなく、コースの特色となっている回遊型教育やフィールドワークでの教育を行う必要があることから、令和5年度は情報系の専門分野のみならず産業動向に明るい人材を候補者として検討すべきなど、様々な可能性について時間をかけて詳細検討した。その結果、説明会、採用活動を令和6年度以降に後ろ倒しすることとした。新コースの開始は令和7年度からであるが、1年時に開講を予定している情報1は高等学校情報1に準ずる内容であるため情報系科目の教育が可能である教員であれば授業準備に時間を要しないこと、回遊型教育については教員がチームで実施する教育であることから、教員採用が令和6年度に後ろ倒しになったとしても事業への影響はない。 ⑤サテライト教室、探索、整備、運用開始に関しては、サテライト教室の慎重な探索を行った結果、回遊型教育についての具体的な検討内容を反映させた最適なサテライト教室を整備することを見え、令和6年度からの整備、運用開始で良いという結論となった。令和7年度からの利用に向けての検討は順調に進んでおり、事業への影響はない。	
令和6年度	【情報系組織の入学定員】 情報系組織の改組・増員前においては、入学定員は総合工学科全体として280人であり、募集・入学時は1類（情報系3コース）120人		○年度自己評価	リストから選択してください。
	① 4月～ 情報系新コース設置に関する文部科学省との調整、手続き。 ② 4月～ 仙台駅前 高度情報専門人材育成センター（仮称）現況整備、運用開始、サテライト教室運用。 ③ 4月～ 名取キャンパス内 高度情報専門人材育成センター（仮称）新設工事(初年度)。 ④ 4月～ 情報系常勤教員および企業講師確保に関する調査、説明会、採用活動 実施。 ⑤ 4月～ 常勤教員1名、特命准教授1名、補佐員2名雇用、授業設計、パワポット授業。 ⑥ 4月～ 情報系新コースで使用する教室の改修・整備。 ⑦ 4月～ 授業録画システムおよびオンライン授業配信装置・ネットワーク整備、*			
令和7年度	総合工学科 II 類 情報と創造コース 設置（入学定員30名）		○年度自己評価	リストから選択してください。
	① 4月～ 設置する情報系新コース 開始。 ② 4月～ 名取キャンパス内 高度情報専門人材育成センター（仮称）新設工事(2年目)、運用開始。 ③ 4月～ 仙台駅前 高度情報専門人材育成センター（仮称）運用、サテライト教室運用。 ④ 4月～ 情報系常勤教員および企業講師確保に関する調査、説明会、採用活動 実施。 ⑤ 4月～ 常勤教員1名雇用、常勤教員による授業実施。 ⑥ 4月～ 特命准教授1名による授業実施。 ⑦ 4月～ 企業講師と連携した企業課題PBL 授業実施。補佐員2名による事務・技術補佐。			
令和8年度	総合工学科 II 類 情報と創造コース（入学定員30名）※入学定員増減無し		○年度自己評価	リストから選択してください。
	① 4月～ 仙台駅前 高度情報専門人材育成センター（仮称）運用、サテライト教室運用。 ② 4月～ 情報系常勤教員および企業講師確保に関する調査、説明会、採用活動 実施。 ③ 4月～ 常勤教員1名雇用、常勤教員による授業実施。 ④ 4月～ 特命准教授1名による授業実施。 ⑤ 4月～ 企業講師と連携した企業課題PBL 授業実施。補佐員2名による事務・技術補佐。 ⑥ 8月 授業録画システム メンテナンス。			
令和9年度	総合工学科 II 類 情報と創造コース（入学定員30名）※入学定員増減無し		○年度自己評価	リストから選択してください。
	① 4月～ 仙台駅前 高度情報専門人材育成センター（仮称）運用、サテライト教室運用。 ② 4月～ 情報系常勤教員および企業講師確保に関する調査、説明会、採用活動 実施。 ③ 4月～ 常勤教員 雇用、常勤教員による授業実施。 ④ 4月～ 特命准教授1名による授業実施。 ⑤ 4月～ 企業講師と連携した企業課題PBL 授業実施。補佐員2名による事務・技術補佐。			
令和10年度	総合工学科 II 類 情報と創造コース（入学定員30名）※入学定員増減無し		○年度自己評価	リストから選択してください。
	① 4月～ 仙台駅前 高度情報専門人材育成センター（仮称）運用、サテライト教室運用。 ② 4月～ 情報系常勤教員および企業講師確保に関する調査、説明会、採用活動 実施。 ③ 4月～ 常勤教員 雇用、常勤教員による授業実施。 ④ 4月～ 特命准教授1名による授業実施。 ⑤ 4月～ 企業講師と連携した企業課題PBL 授業実施。補佐員2名による事務・技術補佐。 ⑥ 8月 授業録画システム メンテナンス。			
令和11年度	総合工学科 II 類 情報と創造コース（入学定員30名）※入学定員増減無し		○年度自己評価	リストから選択してください。
	① 4月～ 仙台駅前 高度情報専門人材育成センター（仮称）運用、サテライト教室運用。 ② 4月～ 情報系常勤教員および企業講師確保に関する調査、説明会、採用活動 実施。 ③ 4月～ 常勤教員 雇用、常勤教員による授業実施。 ④ 4月～ 特命准教授1名による授業実施。 ⑤ 4月～ 企業講師と連携した企業課題PBL 授業実施。補佐員2名による事務・技術補佐。			
令和12年度	総合工学科 II 類 情報と創造コース（入学定員30名）※入学定員増減無し		○年度自己評価	リストから選択してください。
	① 4月～ 仙台駅前 高度情報専門人材育成センター（仮称）運用、サテライト教室運用。 ② 4月～ 情報系常勤教員および企業講師確保に関する調査、説明会、採用活動 実施。 ③ 4月～ 常勤教員 雇用、常勤教員による授業実施。 ④ 4月～ 特命准教授1名による授業実施。 ⑤ 4月～ 企業講師と連携した企業課題PBL 授業実施。補佐員2名による事務・技術補佐。 ⑥ 8月 授業録画システム メンテナンス。			
令和13年度	総合工学科 II 類 情報と創造コース（入学定員30名）※入学定員増減無し		○年度自己評価	リストから選択してください。
	① 4月～ 仙台駅前 高度情報専門人材育成センター（仮称）運用、サテライト教室運用。 ② 4月～ 情報系常勤教員および企業講師確保に関する調査、説明会、採用活動 実施。 ③ 4月～ 常勤教員 雇用、常勤教員による授業実施。 ④ 4月～ 企業講師と連携した企業課題PBL 授業実施。補佐員2名による事務・技術補佐。			
令和14年度	総合工学科 II 類 情報と創造コース（入学定員30名）※入学定員増減無し		○年度自己評価	リストから選択してください。
	① 4月～ 仙台駅前 高度情報専門人材育成センター（仮称）運用、サテライト教室運用。 ② 4月～ 情報系常勤教員および企業講師確保に関する調査、説明会、採用活動 実施。 ③ 4月～ 企業講師と連携した企業課題PBL 授業実施。補佐員2名による事務・技術補佐。 ④ 4月～ 常勤教員による授業実施。 ⑤ 8月 授業録画システム メンテナンス。			

フォローアップ対象年度	令和5年度	高等専門学校名	仙台高等専門学校
-------------	-------	---------	----------

2.申請資格の確認

該当しない場合は、チェックしてください。

- i)

学生募集停止中の高専

該当無し

■ チェック
- ii)

学校教育法第123条で準用する第109条の規定に基づき文部科学大臣の認証を受けた者による直近の評価の結果、「不適合」の判定を受けている高専

該当無し

■ チェック
- iii)

「私立大学等経常費補助金」において、定員の充足状況に係る基準以外の事由により、前年度に不交付又は減額の措置を受けた高専

該当無し

■ チェック
- iv)

設置計画履行状況等調査において、「指摘事項（法令違反）」が付されている高専

該当無し

■ チェック
- v)

大学、短期大学及び高等専門学校設置等に係る認可の基準第2条第1号又は第2号のいずれかに該当する者が設置する高専

該当無し

■ チェック

3.申請要件の取組状況

令和5年度 の取組が当初の計画通りに進んでいる、又はチェック項目に該当する場合はチェックしてください。計画通りに進んでいない、又はチェック項目に該当しない場合は右欄に課題（理由）とその対応を記載してください。

- ①

高等教育の修学支援新制度において、大学等における修学の支援に関する法律に基づき、財務状況や収容定員充足率が適正であることを含めた要件を満たすことの確認を受けた高等専門学校であること。なお、新設予定の高等専門学校で、応募時点において、高等教育の修学支援新制度における要件確認の対象に該当しないものは、本要件は適用されない。

確認を受けている

■ チェック

対象に該当しない

☐ チェック
- ②

志願者数の状況や入学定員及び収容定員充足率等を踏まえた十分な学生確保の見通しを備えた計画となっていること。

計画通りに進んでいる

■ チェック
- ③

産業界を含む社会のニーズ等を踏まえ、学修目標の具体化、体系的な教育カリキュラムの編成及び高等専門学校での学修に必要な資質・能力等を評価する入学者選抜が適切に実施され、そのための体制を構築する計画となっていること。（その際、国際的な質保証の枠組みを活用するなど出口における質保証にも十分留意することが重要。）

計画通りに進んでいる

■ チェック
- ④

特定成長分野のうちデジタル分野の人材を育成するための戦略、適切な管理・教育体制や教育研究環境の整備を図る計画となっていること。

計画通りに進んでいる

■ チェック
- ⑤

計画の対象となる学科・コース等において、実務経験のある教員等による授業科目を配置する計画となっていること。

計画通りに進んでいる

■ チェック
- ⑥

特定成長分野のうち情報系分野に係る学科・コース等の設置・増員（学科の定員の増員を伴わないものを含む。以下「学科・コース等の設置等」という。）を行う計画であり、学位種類分野変更基準に定める工学関係の学位の分野に係るものであること。なお、コース等の設置・増員による体制強化の場合は、学期において、コース等の募集人員数を明記する計画であること。

計画通りに進んでいる

■ チェック
- ⑦

社会において具体的な人材ニーズが現に存在する、又は、その十分な見通しのある分野に係る学科・コース等の設置等の取組であること。

計画通りに進んでいる

■ チェック
- ⑧

機構による事業計画の選定があった日から2年を経過する日を含む年度の末日までに、計画の対象となる学科・コース等の設置等を行う計画であること。

計画通りに進んでいる

■ チェック
- ⑨

計画の対象となる学科・コース等の設置等において、20名以上の入学定員の増員を行う計画であること。

計画通りに進んでいる

■ チェック
- ⑩

国立高等専門学校について、学校全体の収容定員の増員を伴う学科定員の増員を行う場合は、定員増を行った日から10年を経過した日までに、他学科・他コース等を中心に同規模の定員減を行う計画であること。

計画通りに進んでいる、又は対象に該当しない

■ チェック
- ⑪

教員の確保・配置状況等を踏まえた実現可能性の高い計画になっていること。

計画通りに進んでいる

■ チェック

フォローアップ対象年度	令和5年度	高等専門学校名	仙台高等専門学校
-------------	-------	---------	----------

②	文部科学省が実施する数理・データサイエンス・AⅠ教育プログラム認定制度における「リテラシーレベル」の認定を受けていること。		
	認定を受けている	☒ チェック	
	認定を受ける計画が進んでいる	☐ チェック	

4. 審査要項における確認項目の計画及び取組状況

令和5年度の取組実績及び申請時の計画を記載してください。取組実績は会社名や大学名、定量的なデータ等を示し具体的に記載してください。検討中であっても状況を記載してください。

計画の進捗の遅れや実施困難な事項がある場合には、課題（理由）とその対応を記載してください。計画通りに実施できており、その他課題がない場合に限り記載は不要です。

①	地域において自治体や企業等と連携した取組を行う計画となっているか。	<table><tr><th>申請時の計画</th><th>取組実績、進捗状況</th><th>課題（理由）とその対応</th></tr><tr><td>新設する高度情報専門人材育成センター（仮称）が中核拠点となり、情報系新コースのがキョウムで自治体や企業等と連携し取組を行う。回遊型がキョウムを構築してPBL授業、インターンシップ、卒業研究テーマとして取組み、現場で課題発見解決する。 →仙台高等専攻科で約10年実施して好評・実証を得ている課題解決型インターンシップを情報系新コース(3,4年生)でも実施する。 →各自治体と仙台高等で締結している連携協定の枠組み等を活用して、地域の文化会館、体育館、児童館や仙台市科学館等において出前授業やイベント活動、研究紹介を行い、優秀な生徒を発掘して育成する。（シニアドクター育成塾のノウハウ活用） →企業等と連携した取組として、仙台高専の企業同友会である「産学連携振興会」上の連携を深化させる。情報系新コース卒業学生の地域企業就職、共同研究を拡大するとともに、本取組に賛同する企業の資金提供による持続可能な運営スキームを確立する。</td><td>令和5年度における取組実績は以下のとおりである。 →仙台駅前の高度情報専門人材育成センター（仮称）の契約を完了し、課題解決型インターンシップの新コースへの展開（専攻科での実績を低学年へ展開）のために仙南地区工業会、おおさき産業推進機構、東北経済産業局、宮城県産業技術総合センター、アプル、ドリーマーズビルド、NTTデータ経営研究所、NTT東日本等の各連携団体と意見交換を行った。 →包括連携協定を締結している地元名取市との協働公開講座として3Dモデリング体験講座やMix名取フェスタへの出張等を実施した。また、仙台市科学館との合同イベント「仙台高専まるごとフェア」を実施するなど積極的に活動を展開している。 →産学連携振興会会員企業に対して仙台高専の改組ならびに情報系新コースの開設、情報系新コースで予定している教育ががキョウム案などの説明を行い、本取り組みに対する賛同呼び掛けした。</td><td>特に無し</td></tr></table>	申請時の計画	取組実績、進捗状況	課題（理由）とその対応	新設する高度情報専門人材育成センター（仮称）が中核拠点となり、情報系新コースのがキョウムで自治体や企業等と連携し取組を行う。回遊型がキョウムを構築してPBL授業、インターンシップ、卒業研究テーマとして取組み、現場で課題発見解決する。 →仙台高等専攻科で約10年実施して好評・実証を得ている課題解決型インターンシップを情報系新コース(3,4年生)でも実施する。 →各自治体と仙台高等で締結している連携協定の枠組み等を活用して、地域の文化会館、体育館、児童館や仙台市科学館等において出前授業やイベント活動、研究紹介を行い、優秀な生徒を発掘して育成する。（シニアドクター育成塾のノウハウ活用） →企業等と連携した取組として、仙台高専の企業同友会である「産学連携振興会」上の連携を深化させる。情報系新コース卒業学生の地域企業就職、共同研究を拡大するとともに、本取組に賛同する企業の資金提供による持続可能な運営スキームを確立する。	令和5年度における取組実績は以下のとおりである。 →仙台駅前の高度情報専門人材育成センター（仮称）の契約を完了し、課題解決型インターンシップの新コースへの展開（専攻科での実績を低学年へ展開）のために仙南地区工業会、おおさき産業推進機構、東北経済産業局、宮城県産業技術総合センター、アプル、ドリーマーズビルド、NTTデータ経営研究所、NTT東日本等の各連携団体と意見交換を行った。 →包括連携協定を締結している地元名取市との協働公開講座として3Dモデリング体験講座やMix名取フェスタへの出張等を実施した。また、仙台市科学館との合同イベント「仙台高専まるごとフェア」を実施するなど積極的に活動を展開している。 →産学連携振興会会員企業に対して仙台高専の改組ならびに情報系新コースの開設、情報系新コースで予定している教育ががキョウム案などの説明を行い、本取り組みに対する賛同呼び掛けした。	特に無し
申請時の計画	取組実績、進捗状況	課題（理由）とその対応						
新設する高度情報専門人材育成センター（仮称）が中核拠点となり、情報系新コースのがキョウムで自治体や企業等と連携し取組を行う。回遊型がキョウムを構築してPBL授業、インターンシップ、卒業研究テーマとして取組み、現場で課題発見解決する。 →仙台高等専攻科で約10年実施して好評・実証を得ている課題解決型インターンシップを情報系新コース(3,4年生)でも実施する。 →各自治体と仙台高等で締結している連携協定の枠組み等を活用して、地域の文化会館、体育館、児童館や仙台市科学館等において出前授業やイベント活動、研究紹介を行い、優秀な生徒を発掘して育成する。（シニアドクター育成塾のノウハウ活用） →企業等と連携した取組として、仙台高専の企業同友会である「産学連携振興会」上の連携を深化させる。情報系新コース卒業学生の地域企業就職、共同研究を拡大するとともに、本取組に賛同する企業の資金提供による持続可能な運営スキームを確立する。	令和5年度における取組実績は以下のとおりである。 →仙台駅前の高度情報専門人材育成センター（仮称）の契約を完了し、課題解決型インターンシップの新コースへの展開（専攻科での実績を低学年へ展開）のために仙南地区工業会、おおさき産業推進機構、東北経済産業局、宮城県産業技術総合センター、アプル、ドリーマーズビルド、NTTデータ経営研究所、NTT東日本等の各連携団体と意見交換を行った。 →包括連携協定を締結している地元名取市との協働公開講座として3Dモデリング体験講座やMix名取フェスタへの出張等を実施した。また、仙台市科学館との合同イベント「仙台高専まるごとフェア」を実施するなど積極的に活動を展開している。 →産学連携振興会会員企業に対して仙台高専の改組ならびに情報系新コースの開設、情報系新コースで予定している教育ががキョウム案などの説明を行い、本取り組みに対する賛同呼び掛けした。	特に無し						
②	初等中等教育段階の学校との連携に関する取組を行う計画となっているか。	<table><tr><th>申請時の計画</th><th>取組実績、進捗状況</th><th>課題（理由）とその対応</th></tr><tr><td>これまで実績があり効果が発証されている小学校、中学校、高等学校と連携した具体的な取組を基に、更に拡大実施する。 →次世代を担う人材育成を共同実施する。実績のある出前授業やサークル活動、研究紹介を行い優秀な生徒を発掘、育成する。 ※JSTユニアクトゥー育成塾(H29～R3)で増えたノウハウを活用する。 →小学校、中学校と一緒に発掘、育成した人材を特別選抜枠として情報系新コースへ入学・獲得する。 →地域の教育委員会と連携して、小学校、中学校、高等学校教員の情報教育スキルアップを行う研修を実施し積極的に支援する。</td><td>令和5年度における取組実績は以下のとおりである。 →コア力養成活動を厚待している移動体験教育理科レンジャーを仙台市科学館との合同イベントである「仙台高専まるごとフェア」にて再開させた。令和6年度は活動を拡大して予定である。 →特別選抜実施に向けて学内で協議を行った結果、学力検査および推薦による選抜よりも早い時期に特別選抜入試を実施することになった。実施の実現には国立高等専門学校校長の承認が必要であることから、理事長協議申請手続きを行った。 →名取市教育委員会との連携により名取市内中学校理科教員に対する研修会を実施した。</td><td>特に無し</td></tr></table>	申請時の計画	取組実績、進捗状況	課題（理由）とその対応	これまで実績があり効果が発証されている小学校、中学校、高等学校と連携した具体的な取組を基に、更に拡大実施する。 →次世代を担う人材育成を共同実施する。実績のある出前授業やサークル活動、研究紹介を行い優秀な生徒を発掘、育成する。 ※JSTユニアクトゥー育成塾(H29～R3)で増えたノウハウを活用する。 →小学校、中学校と一緒に発掘、育成した人材を特別選抜枠として情報系新コースへ入学・獲得する。 →地域の教育委員会と連携して、小学校、中学校、高等学校教員の情報教育スキルアップを行う研修を実施し積極的に支援する。	令和5年度における取組実績は以下のとおりである。 →コア力養成活動を厚待している移動体験教育理科レンジャーを仙台市科学館との合同イベントである「仙台高専まるごとフェア」にて再開させた。令和6年度は活動を拡大して予定である。 →特別選抜実施に向けて学内で協議を行った結果、学力検査および推薦による選抜よりも早い時期に特別選抜入試を実施することになった。実施の実現には国立高等専門学校校長の承認が必要であることから、理事長協議申請手続きを行った。 →名取市教育委員会との連携により名取市内中学校理科教員に対する研修会を実施した。	特に無し
申請時の計画	取組実績、進捗状況	課題（理由）とその対応						
これまで実績があり効果が発証されている小学校、中学校、高等学校と連携した具体的な取組を基に、更に拡大実施する。 →次世代を担う人材育成を共同実施する。実績のある出前授業やサークル活動、研究紹介を行い優秀な生徒を発掘、育成する。 ※JSTユニアクトゥー育成塾(H29～R3)で増えたノウハウを活用する。 →小学校、中学校と一緒に発掘、育成した人材を特別選抜枠として情報系新コースへ入学・獲得する。 →地域の教育委員会と連携して、小学校、中学校、高等学校教員の情報教育スキルアップを行う研修を実施し積極的に支援する。	令和5年度における取組実績は以下のとおりである。 →コア力養成活動を厚待している移動体験教育理科レンジャーを仙台市科学館との合同イベントである「仙台高専まるごとフェア」にて再開させた。令和6年度は活動を拡大して予定である。 →特別選抜実施に向けて学内で協議を行った結果、学力検査および推薦による選抜よりも早い時期に特別選抜入試を実施することになった。実施の実現には国立高等専門学校校長の承認が必要であることから、理事長協議申請手続きを行った。 →名取市教育委員会との連携により名取市内中学校理科教員に対する研修会を実施した。	特に無し						
③	女子学生、社会人学生、留学生等の確保に向けた特色ある取組を行う計画となっているか。	<table><tr><th>申請時の計画</th><th>取組実績、進捗状況</th><th>課題（理由）とその対応</th></tr><tr><td>女子学生確保として、①Webデザイン、化学、保健・美容、建築デザイン、農業など、女子学生が興味を持つ分野に関する企業等との連携による授業構成、②ビジネス・経営・マーケティング教育を充実させた文理解合によるがキョウム広構築・実施、③新設コースにおけるがキョウムパスについて女子中高生や保護者への説明会開催といった取組を行い、仙台高専全体で多方面への積極的広報活動による周知・理解を行い、目標を実現する。 社会人学生確保として、リスケリングを希望する社会人に対して、世界的な潮流になりつつある①マイクロデジタル制度適用による希望に応じた分野・授業の集中的学習、②オープンバッジ取得による学習歴のデジタル証明といった取組を仙台高専が先導して行い、多くの高専へ展開する。 留学生確保として、協定を締結しておりデジタル人材を強めているモンゴル高専、タイ高専を中心に、連携企業との課題解決型インターンシップをはじめとする実践的な取組を行い留学生を拡充採用する。</td><td>令和5年度における取組実績は以下のとおりである。 →女子学生確保：学内での検討の結果、情報系新コースががキョウムにデジタルデザインおよび文理融合科目を導入した。改組認可後の広報活動に向けてHPの整備等を行っている。 →社会人学生確保：リカレント教育、マイクロデジタル制度に関する情報収集を行い、導入のための検討を進めている。 →留学生確保：令和6年3月に本校教員、産学連携振興会会員企業代表者が連携協定校であるモンゴル高専へ訪問し、インターンシップの説明や外国入道抜関連の打ち合わせを実施した。</td><td>特に無し</td></tr></table>	申請時の計画	取組実績、進捗状況	課題（理由）とその対応	女子学生確保として、①Webデザイン、化学、保健・美容、建築デザイン、農業など、女子学生が興味を持つ分野に関する企業等との連携による授業構成、②ビジネス・経営・マーケティング教育を充実させた文理解合によるがキョウム広構築・実施、③新設コースにおけるがキョウムパスについて女子中高生や保護者への説明会開催といった取組を行い、仙台高専全体で多方面への積極的広報活動による周知・理解を行い、目標を実現する。 社会人学生確保として、リスケリングを希望する社会人に対して、世界的な潮流になりつつある①マイクロデジタル制度適用による希望に応じた分野・授業の集中的学習、②オープンバッジ取得による学習歴のデジタル証明といった取組を仙台高専が先導して行い、多くの高専へ展開する。 留学生確保として、協定を締結しておりデジタル人材を強めているモンゴル高専、タイ高専を中心に、連携企業との課題解決型インターンシップをはじめとする実践的な取組を行い留学生を拡充採用する。	令和5年度における取組実績は以下のとおりである。 →女子学生確保：学内での検討の結果、情報系新コースががキョウムにデジタルデザインおよび文理融合科目を導入した。改組認可後の広報活動に向けてHPの整備等を行っている。 →社会人学生確保：リカレント教育、マイクロデジタル制度に関する情報収集を行い、導入のための検討を進めている。 →留学生確保：令和6年3月に本校教員、産学連携振興会会員企業代表者が連携協定校であるモンゴル高専へ訪問し、インターンシップの説明や外国入道抜関連の打ち合わせを実施した。	特に無し
申請時の計画	取組実績、進捗状況	課題（理由）とその対応						
女子学生確保として、①Webデザイン、化学、保健・美容、建築デザイン、農業など、女子学生が興味を持つ分野に関する企業等との連携による授業構成、②ビジネス・経営・マーケティング教育を充実させた文理解合によるがキョウム広構築・実施、③新設コースにおけるがキョウムパスについて女子中高生や保護者への説明会開催といった取組を行い、仙台高専全体で多方面への積極的広報活動による周知・理解を行い、目標を実現する。 社会人学生確保として、リスケリングを希望する社会人に対して、世界的な潮流になりつつある①マイクロデジタル制度適用による希望に応じた分野・授業の集中的学習、②オープンバッジ取得による学習歴のデジタル証明といった取組を仙台高専が先導して行い、多くの高専へ展開する。 留学生確保として、協定を締結しておりデジタル人材を強めているモンゴル高専、タイ高専を中心に、連携企業との課題解決型インターンシップをはじめとする実践的な取組を行い留学生を拡充採用する。	令和5年度における取組実績は以下のとおりである。 →女子学生確保：学内での検討の結果、情報系新コースががキョウムにデジタルデザインおよび文理融合科目を導入した。改組認可後の広報活動に向けてHPの整備等を行っている。 →社会人学生確保：リカレント教育、マイクロデジタル制度に関する情報収集を行い、導入のための検討を進めている。 →留学生確保：令和6年3月に本校教員、産学連携振興会会員企業代表者が連携協定校であるモンゴル高専へ訪問し、インターンシップの説明や外国入道抜関連の打ち合わせを実施した。	特に無し						
④	他の大学（外国大学を含む）、高等専門学校等と連携した取組を行う計画となっているか。	<table><tr><th>申請時の計画</th><th>取組実績、進捗状況</th><th>課題（理由）とその対応</th></tr><tr><td>「高度情報専門人材育成センター（仮称）」を組織編成して、企業人材や東北地区高専・大学の学生、教員が集いやすい仙台駅前に教育研究環境を整備する。本センターが情報系新コースの教育研究・人材育成拠点となり多くの大学・高専と効果的連携を行う。 →オンライン/オンデマンド授業による単位互換制度を拡充する。 →仙台駅前の高度情報専門人材育成センターで共同イベント/シンポジウム、サマースクールを開催し学生間や企業と交流の場とする。 →課題解決型インターンシップを東北地区をはじめとする多くの高専へ展開し、共同実施する。 →協定を締結しているモンゴル高専、タイ高専をはじめとする留学生をはじめ、多くの大学・高専の留学生と企業との連携強化を行う。 →情報系アンブレラ教育を連携して実施する。</td><td>令和5年度は他の大学・高等専門学校等と連携した取組を行うための準備を整える期間と位置づけ、以下の取り組みを行った。 →仙台駅前の「高度情報人材育成センター（仮称）」の契約を完了し、情報系新コースの教育と情報系アンブレラ教育が展開可能な組織編成について学内で検討した。 →「高度情報人材育成センター（仮称）」に関しては、令和5年度末において教育研究環境整備のための工事内容を固め、オンライン/オンデマンド授業を実施するために必要な設備の入札準備、他高専や留学生を巻き込んだ共同イベント/シンポジウム、サマースクール等を実施するための環境整備に必要な工事の検討を行い、令和6年度中に準備が完了する工事スケジュールを確定させた。</td><td>特に無し</td></tr></table>	申請時の計画	取組実績、進捗状況	課題（理由）とその対応	「高度情報専門人材育成センター（仮称）」を組織編成して、企業人材や東北地区高専・大学の学生、教員が集いやすい仙台駅前に教育研究環境を整備する。本センターが情報系新コースの教育研究・人材育成拠点となり多くの大学・高専と効果的連携を行う。 →オンライン/オンデマンド授業による単位互換制度を拡充する。 →仙台駅前の高度情報専門人材育成センターで共同イベント/シンポジウム、サマースクールを開催し学生間や企業と交流の場とする。 →課題解決型インターンシップを東北地区をはじめとする多くの高専へ展開し、共同実施する。 →協定を締結しているモンゴル高専、タイ高専をはじめとする留学生をはじめ、多くの大学・高専の留学生と企業との連携強化を行う。 →情報系アンブレラ教育を連携して実施する。	令和5年度は他の大学・高等専門学校等と連携した取組を行うための準備を整える期間と位置づけ、以下の取り組みを行った。 →仙台駅前の「高度情報人材育成センター（仮称）」の契約を完了し、情報系新コースの教育と情報系アンブレラ教育が展開可能な組織編成について学内で検討した。 →「高度情報人材育成センター（仮称）」に関しては、令和5年度末において教育研究環境整備のための工事内容を固め、オンライン/オンデマンド授業を実施するために必要な設備の入札準備、他高専や留学生を巻き込んだ共同イベント/シンポジウム、サマースクール等を実施するための環境整備に必要な工事の検討を行い、令和6年度中に準備が完了する工事スケジュールを確定させた。	特に無し
申請時の計画	取組実績、進捗状況	課題（理由）とその対応						
「高度情報専門人材育成センター（仮称）」を組織編成して、企業人材や東北地区高専・大学の学生、教員が集いやすい仙台駅前に教育研究環境を整備する。本センターが情報系新コースの教育研究・人材育成拠点となり多くの大学・高専と効果的連携を行う。 →オンライン/オンデマンド授業による単位互換制度を拡充する。 →仙台駅前の高度情報専門人材育成センターで共同イベント/シンポジウム、サマースクールを開催し学生間や企業と交流の場とする。 →課題解決型インターンシップを東北地区をはじめとする多くの高専へ展開し、共同実施する。 →協定を締結しているモンゴル高専、タイ高専をはじめとする留学生をはじめ、多くの大学・高専の留学生と企業との連携強化を行う。 →情報系アンブレラ教育を連携して実施する。	令和5年度は他の大学・高等専門学校等と連携した取組を行うための準備を整える期間と位置づけ、以下の取り組みを行った。 →仙台駅前の「高度情報人材育成センター（仮称）」の契約を完了し、情報系新コースの教育と情報系アンブレラ教育が展開可能な組織編成について学内で検討した。 →「高度情報人材育成センター（仮称）」に関しては、令和5年度末において教育研究環境整備のための工事内容を固め、オンライン/オンデマンド授業を実施するために必要な設備の入札準備、他高専や留学生を巻き込んだ共同イベント/シンポジウム、サマースクール等を実施するための環境整備に必要な工事の検討を行い、令和6年度中に準備が完了する工事スケジュールを確定させた。	特に無し						
⑦	文部科学省が実施する数理・データサイエンス・AⅠ教育プログラム認定制度について、申請要件である「リテラシーレベル」に係る要件を満たすのみならず、更に「応用基礎レベル」の認定を受けている、又は「応用基礎レベル」の認定を受ける計画があるか。	<table><tr><th>申請時の計画</th><th>取組実績、進捗状況</th><th>課題（理由）とその対応</th></tr><tr><td>数理・データサイエンス・AI教育認定制度について、仙台高専全体として「応用基礎レベル」の認定を受ける。具体的には次年度（令和6年度）の「応用基礎レベル」申請・認定に向け、今年度（令和5年度）より「3つの基本要素」に「モデルがキョウムの各項目」を満足できる授業科目およびがキョウムの詳細検討を学内で進めている。今回拡充設置する情報系新コースは、設置済の電気電子・材料・機械・建築系コースや連携企業等との相乗効果を図ること、デジタル分野ともづくりの知識、スキルを融合して展開できる優秀人材を育成・早期輩出する。更に、企業等が抱えている実際の現場での課題を情報・AI・DXを活用することで学生が発見して解を導く実践的がキョウムを構築する。つまり「応用基礎レベル」で求められる「AI応用力の習得」である「AIx専門分野のデジタルメジャーの促進」、「AIで地域課題等の解決ができる人材育成」をさらに効果的に実現できる内容であり、成果を保証できる。</td><td>令和5年度における取組実績は以下のとおりである。 →数理・データサイエンス・AI教育認定制度について、広瀬キャンパスですでに「応用基礎レベル」に必要な科目は整備されており、仙台高専全体として「応用基礎レベル」の認定を受けるためには、名取キャンパスのがキョウムの検討・整備が必要であったため、令和5年度中に名取キャンパスにおいて「応用基礎レベル」の認定に必要な授業科目の整備を行った。令和6年度に申請予定であり、認定に向けての準備を進めている。</td><td>特に無し</td></tr></table>	申請時の計画	取組実績、進捗状況	課題（理由）とその対応	数理・データサイエンス・AI教育認定制度について、仙台高専全体として「応用基礎レベル」の認定を受ける。具体的には次年度（令和6年度）の「応用基礎レベル」申請・認定に向け、今年度（令和5年度）より「3つの基本要素」に「モデルがキョウムの各項目」を満足できる授業科目およびがキョウムの詳細検討を学内で進めている。今回拡充設置する情報系新コースは、設置済の電気電子・材料・機械・建築系コースや連携企業等との相乗効果を図ること、デジタル分野ともづくりの知識、スキルを融合して展開できる優秀人材を育成・早期輩出する。更に、企業等が抱えている実際の現場での課題を情報・AI・DXを活用することで学生が発見して解を導く実践的がキョウムを構築する。つまり「応用基礎レベル」で求められる「AI応用力の習得」である「AIx専門分野のデジタルメジャーの促進」、「AIで地域課題等の解決ができる人材育成」をさらに効果的に実現できる内容であり、成果を保証できる。	令和5年度における取組実績は以下のとおりである。 →数理・データサイエンス・AI教育認定制度について、広瀬キャンパスですでに「応用基礎レベル」に必要な科目は整備されており、仙台高専全体として「応用基礎レベル」の認定を受けるためには、名取キャンパスのがキョウムの検討・整備が必要であったため、令和5年度中に名取キャンパスにおいて「応用基礎レベル」の認定に必要な授業科目の整備を行った。令和6年度に申請予定であり、認定に向けての準備を進めている。	特に無し
申請時の計画	取組実績、進捗状況	課題（理由）とその対応						
数理・データサイエンス・AI教育認定制度について、仙台高専全体として「応用基礎レベル」の認定を受ける。具体的には次年度（令和6年度）の「応用基礎レベル」申請・認定に向け、今年度（令和5年度）より「3つの基本要素」に「モデルがキョウムの各項目」を満足できる授業科目およびがキョウムの詳細検討を学内で進めている。今回拡充設置する情報系新コースは、設置済の電気電子・材料・機械・建築系コースや連携企業等との相乗効果を図ること、デジタル分野ともづくりの知識、スキルを融合して展開できる優秀人材を育成・早期輩出する。更に、企業等が抱えている実際の現場での課題を情報・AI・DXを活用することで学生が発見して解を導く実践的がキョウムを構築する。つまり「応用基礎レベル」で求められる「AI応用力の習得」である「AIx専門分野のデジタルメジャーの促進」、「AIで地域課題等の解決ができる人材育成」をさらに効果的に実現できる内容であり、成果を保証できる。	令和5年度における取組実績は以下のとおりである。 →数理・データサイエンス・AI教育認定制度について、広瀬キャンパスですでに「応用基礎レベル」に必要な科目は整備されており、仙台高専全体として「応用基礎レベル」の認定を受けるためには、名取キャンパスのがキョウムの検討・整備が必要であったため、令和5年度中に名取キャンパスにおいて「応用基礎レベル」の認定に必要な授業科目の整備を行った。令和6年度に申請予定であり、認定に向けての準備を進めている。	特に無し						

高等専門学校名	仙台高等専門学校	改組内容	学科・コース等の設置・増員（高専）
---------	----------	------	-------------------

1.本事業対象となる情報系組織の状況

＜合計＞

[illegible]

高等専門学校名	仙台高等専門学校	改組内容	学科・コース等の設置・増員（高専）
---------	----------	------	-------------------

本事業対象となる研究科等の個数	1
-----------------	---

1. 本事業対象となる情報系組織の状況

＜内訳＞

(1)	改組組織名	総合工学科 情報と創造コース
-----	-------	----------------

[illegible]

高等専門学校名	仙台高等専門学校	改組内容	学科・コース等の設置・増員（高専）
---------	----------	------	-------------------

2.情報系組織の状況

[illegible]

3. 高等専門学校全体の状況

[illegible]

高等専門学校名	仙台高等専門学校	改組内容	学科・コース等の設置・増員（高専）
---------	----------	------	-------------------

4.外部資金の状況（全学）

年度		R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	R11年度	R12年度	R13年度	R14年度	R15年度	R16年度	R17年度	R18年度	R19年度	R20年度	R21年度	R22年度	R23年度
項目	単位																			
外部資金獲得額	千円	177,410	***																	

特記事項

総合工学科のR5年度及びR6年度の編入学定員の0人とは若干名を意味している。
--